



本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。

…会員随時募集中!…

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内 TEL/FAX: 0467-47-1164 木曜を除く 10時~16時
Web URL: <http://www1.ocn.ne.jp/~ya-yato/> E メールアドレス: ya-yato@arrow.ocn.ne.jp

4/18 深沢小 2年体験学習、畑の草取り



あの3月11日の翌日、谷戸は普段と何も変わらず、春にはまだ遠いたたずまいを呈していました。畑の支柱も、柵や看板もピンと立ち、静かでした。その後、原発事故の深刻さが判明し、谷戸を渡る風が健全なのかは不明でしたが、少なくとも私たちは谷戸で昔ながらの暮らしを展開している限り、安全で安心だと思えます。山から薪を切り出し、落ち葉や刈り草で堆肥を作り、米や野菜を少量育て、かまどでご飯を炊く。電気もガスもない時代に戻ってもやっていけそうな谷戸人の私たち。脱原発を目指す未来に向けて、私たちの保全活動の蓄積が役立つ時代に突入したと実感します。

恒例の「春の谷戸まつり」の頒布金の一部は、被災地の一日も早い復興を願い、震災支援金に充当させていただきます。多くの方のご協力を期待します。また、買いだめで一時物資が消えた時期に、谷戸米が役立ったという嬉しい報告と、被災者支援活動のために催されたもちつき大会に道具一式をお貸しした成果をお知らせします(P3)。

新しい顔ぶれを大勢交えて、今年度の班活動が始まりました。気軽にご参加ください。

田んぼ調査報告 「ミミズも田んぼをふやすよ」

エラミミズ



1 cm



ユリミミズ

昨年から、私たち横浜国大大学院土壌生態学研究室では、山崎・谷戸の会のご協力のもとに、谷戸のミミズについて調査をさせていただいています。田んぼにはもともと多様な生きものがいて、里山の生きものの主要メンバーとなっていました。農業の近代化にともなって、多くのものが失われました。山崎の田んぼでは昔の農法を守り、特にここ数年は、農薬を一切使っていないと聞き、「もともとの田んぼにいたミミズたちが今もいるに違いない」と調査を始めました。

■谷戸の田んぼには、ミミズが1㎡あたり1万頭、8種類もいる

田んぼには湖や川の底に住んでいる水生ミミズと呼ばれる、淡水中で生活するミミズがいます。金魚の餌として売られているイトミミズも、その仲間です。谷戸の田んぼ調査は、昨年5月から11月まで、毎月一回、決まった方法で田んぼ

の土を採取し、研究室で土からミミズをより分けて数と種類を調べました。その結果、1㎡あたり、4,000~10,000頭もの水生ミミズが暮らしていること。そのなかで数が多いのはユリミミズとエラミミズと呼ばれるミミズであり、そのほか全部でなんと8種類ものミミズがいることがわかりました（写真上）。全国の田んぼにミミズが何種類いるかはこれから急いで調べなくてはなりません。8種類もいるということは山崎谷戸の自然の豊かさを物語っています。

田んぼにミミズがたくさんいると、よいことがたくさんあります。ミミズは、他の動物の餌として食物連鎖の起点となります。また、田んぼの土壌を豊かにし、雑草の種子を土のなかに埋没させるので、雑草の発芽を抑制します。ミミズは頭を土に突っ込み、腐りかけのワラを土と一緒に食べ、土壌の上に出したお尻から糞として排泄します。このとき、土の中には酸素がたくさん入ります。水田では微生物の活動によって酸素が無くなり、メタン生成菌が活動するので、メタンガスが発生します。水田を歩くと大きな泡が土のなかから出てくるのがメタンガスです。メタンは地球温暖化問題に関しては二酸化炭素より悪者です。ミミズが酸素を土壌に入れると今度はメタンを食べる細菌が増えて、メタン排出量が減少します。

■今年は、月1回、隠田でメタンガスを測定

昨年は、実験室でエラミミズがメタンの発生を少なくすることを確かめました。そこで、今年は田んぼの土を踏まなくても良いように足場を作り、イネの上から透明の箱をかぶせて発生してきたメタンガスを測定する予定です。4/17には谷戸の会の協力で、立派な足場ができました（写真左）。



5月から月1回、隠田という通路沿いの田んぼで、ガス観測を行います。「生きものを大切にする農法は、実は地球環境にもよい方法かもしれない」、今年の調査ではこのようなことが明らかにできるとよいと思って谷戸に通います。

横浜国立大学大学院環境情報研究院
金子信博、谷地俊二、Mitra Priyanka

今年度も活動支援に助成金をいただきました。★もり・みず市民事業支援補助金

今年もやります！

かながわコミュニティカレッジ連携講座

「里山保全ボランティア講座」

昨年から、当会の「谷戸塾」の中の座学「谷戸講座」を、鎌倉中央公園内だけに限らず、もっと多くの県民に公開しようと企画しました。今年度は実習を多く取り入れた内容です。ただいま募集中。

会場：①⑥かながわ県民センター11階 かながわコミュニティカレッジ講義室(講義)(横浜駅西口5分)

②～⑤鎌倉中央公園(講義と実習)

期間：5月7日～11月5日 10時～12時

受講料：3000円 **定員：**45名

講座内容：①5/7(土)「谷戸について」 ②6/4(土)「谷戸の田・田植え体験」 ③7/10(日)「谷戸の畑・畑作業」 ④9/11(日)「谷戸の生態系・観察会」 ⑤10/9(日)「谷戸の収穫・稲刈り」 ⑥11/5(土)「市民活動としての里山保全」



谷戸往來 谷戸往來 谷戸往來

今年も谷戸塾がスタート！

昨年に引き続き谷戸塾が始まりました。4/10のオリエンテーションには乳幼児連れの子などたくさんの方が参加され、初回は大人も子どもも大賑わいでした。

【参加者の感想から】3月20日、谷戸塾基礎課程の修了書を戴きました。1年前、長年に亘り土掘りをしてきたゴルフクラブを鍬、鋤、鎌などに持ち替え、参加させて戴いた田圃班で、生まれて初めて田にも足を踏み入れ、皆さんの足を引っ張りながら見よう見まねで、色々と体験できたことを感謝しています。この1年間の拙い経験を基に少しでもお役に立てるようになればと思っています。

「老夫婦 たった二人で 稲を刈る 新米の我 辛さ身に沁む」(宇田川榕一郎)

谷戸米が役立ったという嬉しい報告です

3月の不足する米販売の中、谷戸米が地域の配食のお役に立てたようで、お礼状が届きました。

★お店から色々な物がなくなり、お米が買えない状態が何日か続きました。計画停電期間中、月2回の給食(地域の一人暮らし高齢者対象)に、おにぎりだけでも配れたらと当会会長から指示があったときに、「お米だけは谷戸の会さんから頂いたものがあるから作れます」と即座に答えられた嬉しさは、何とも言えませんでした。本当にありがたかったです。試食させて頂きましたが、とても美味しく甘みがありました。ありがとうございました。(腰越地区社協給食部会 白井智子)

被災者支援の餅つき大会に道具一式を貸与

当会の餅つき道具が、震災支援に役立ちましたのでご紹介します。★「萩郷シニアクラブ」が、「チャリティー餅つき大会」を開催しました。萩郷の子供たち50人を含めて総勢112人が手伝いに参加。義援金は、15万2,460円が参加者の心でした。道具一式を借用し、米30kg、15臼の餅を、無事に且つ、盛大に終了しました。これらはひとえに「谷戸の会」の皆さんのご支援にほかなりません。ありがとうございました。(萩郷シニアクラブ 古井一孝)



各班からのお知らせ

田んぼ班

★5/1 (日)、3(火・祝) 田うない ★8(日)、14 (土)、15 (日) くろつけ
★28(土)、29 (日) 代かき

種籾蒔きが完了しました。満足できる育苗めざして毎年工夫をしています。今年こそ！！農繁期を告げて、カエルたちがにぎやかに鳴きだしました。今年は小さいお子さんを持つ若い世代の新メンバーが増え、活躍に期待しています。



種籾蒔き

畑班

★5/1 (日) じゃがいもの土寄せ
★8 (日) 草取り・草刈り・耕し
★15(日)さつまいもの苗植え ★22(日)そら豆の収穫 ★29(日)小麦の収穫・耕し



さつまいもの苗取り

谷戸の畑は春たけなわ、疎林広場の小麦は穂を出し、炭焼き小屋中段ではそら豆の実がふくらみかけています。2月末に植え付けたじゃがいもの芽が出揃い、さつまいもの苗も苗床で順調に育っています。5月はさつまいもの植え付けや小麦の収穫があります。

一年の中で一番気持ちの良いこの時期に畑で一汗かく爽快感を一緒に体験してみませんか。

雑木林管理班 ★5/15 (日) 草刈り

冬の間の作業である、昨シーズンの雑木林の除間伐は終了しました。昨年度は父と子の里山体験での伐採も含め、枯木・危険木の4本の除間伐、小段谷戸の木障切り(田んぼに日陰を作る木を切る作業)と、作業が進みました。秋までは、農作業のかたわら草刈りなどの作業を実施していきます。



農芸班 ★6/10 (金) 梅干し作り (梅収穫・下漬け)

今年も、どの梅の木も可憐な花を咲かせていました。谷戸まつりで人気の梅干し。常温で保存するため塩分20%、昔ながらの懐かしい風味を味わえます。



梅の実取り

自然遊び班

★5/29 (日)
こども一日里山体験
「湿地であそぼう」

湿地にはいるのが気持ちのよい季節です。首まで浸かって楽しむ子どももいます！

★6/19 (日)
こども一日里山体験
「小麦の脱穀」

昔ながらの道具を使ってお手伝いをします。

谷戸の自然だより ～早春から初夏へ～

未曾有の大震災を憂いているかのように、サクラの開花が一週間以上遅れました。春のチョウやトンボも出遅れています、今年は春先に多いシオヤトンボの数が少ないようです。春の寒さが影響しているのでしょうか。シオヤトンボは、シオカラトンボに似た白っぽいトンボで、田うないの頃、畔に多くのシオヤトンボがとまっている様子は、初夏の谷戸らしい風景です。

～ アマガエル ～

谷戸にはアオガエルとアマガエルがいることをご存知でしょうか。「♪月夜の晩にコロロ・コロコロ 鳴く声は、あれはカエルの銀の笛♪」という曲はアオガエルのことです。「♪カエルの歌が聞こえてくるよ、ゲッ・ゲッ・ゲッ・ゲッ、ゲロゲロゲロゲロ、グワッ・グワッ・グワッ♪」という曲はアマガエルの鳴き声を表しています。アマガエルは田んぼがあればどこでも住んでいるようですが、アオガエルは田んぼの周囲に広い林があるような谷戸でないと暮らせません。両種のカエルが見られる谷戸は貴重な場所です。共に普段は樹上で生活していて、産卵の時だけ田んぼに降りてきます。冬眠から覚めるのは一緒でも、鳴き始めるのはアオガエルの方が早く、4月下旬から5月、田うないの頃に産卵を始めます。アマガエルは田植えが始まる6月初旬、アオガエルの産卵が終わるのを待って？から産卵を始めます。中にはアオガエルと同時期に産卵してしまう、節操も無い？アマガエルもいますが、昔からのしきたりを知らない他所から流れてきた新参者のアマガエルに違いないと想像しています。

アマガエルは、田植え直後の稲の苗などに、仁丹の粒くらいの透明な卵を産みます。小さな泡そっくりな卵が数個水中にあるだけなので、ほとんど見つけられません。ほどなく、無数のゴマ粒くらいの黒いオタマジャクシが田んぼに湧いてきて驚かされます。アカガエルなどは他のオタマジャクシより小さいので、農作業をしない人には見つけにくいのですが、田んぼに入って作業される方はぜひ探してみてください。圧倒されるほどの数です。これがアマガエルのオタマジャクシで、成長すると、アカガエルなど他のオタマジャクシと同じくらいの大さになります。丸っこい体つきで目が体の横についているので、フグに似た黒っぽいオタマジャクシです。尾が長くスマートで薄茶色のアオガエルのオタマジャクシとはすぐに見分けられるでしょう。



生態系保全班 ★夜の自然観察 6/4(土)、18(土)

コウモリや鳴く虫、そして光る虫も楽しみです。



植物育成班 ★野草の苗の植付け 6/26(日)

春に蒔いた、谷戸産の野草の苗を畑に植えます。

ホタルの紙芝居を読んでもらう ボランティアの方募集！



鎌倉中央公園には、みなさんの日頃の里山保全活動のおかげで、田や湿地が守られ、ホタルが生息しています。毎年6～7月中旬まで、ホタルを觀賞するためのマナーや、ホタルの生態を知っていただくために、自主保育グループ、町内会、小学校のご協力によって、手作りの紙芝居を上演しています。お友だちやご家族の方を誘って、ホタルの紙芝居ボランティアに参加してみませんか。山崎の谷戸のホタルたちのために、ご協力よろしくお願ひします。

日程：6/4、18、7/2、9
時間：19:00～20:30(閉園時間帯
につき駐車場は利用できません)
集合場所：山崎口しいし前の
ベンチ
服装：長袖・長ズボン

お申し込み&お問い合わせは
事務局まで
電話 or Fax or メールにて